

ばってん

事務長会報第41号

平成 29 年 3 月 31 日

長崎県公立学校事務長会
長崎県立鳴滝高等学校内

〒850-0011
長崎市鳴滝一丁目4番1号
電話 (095)820-0056



ホテル **ももつ丸** 長崎

TEL 095-822-2251
長崎市筑後町4番10号

安全と安心

事務局長（島原特別支援学校） 松嶋 繁昭

平成 28 年 4 月、熊本地方を震央とする震度 7 の地震が 2 度発生しました。本震の後、しばらくは余震が続き段々と静まってくるものですが、本震の翌々日深夜に発生した余震（後にこちらの方が本震と訂正）は阪神・淡路大震災と同規模の大地震で、島原半島でも震度 5 強を観測しました。この 2 度に渡る震度 7 の地震により熊本県の公立学校では 7 割弱の学校でガラス散乱、水道管破裂、天井材落下、建物コンクリート剥離、地面隆起といった被害が発生し、4 割近くの学校が避難所となりました。避難所となった学校の先生方が、自宅が倒壊しているのにも関わらず優先的に避難者のお世話をされている姿をテレビで拝見しました。ほんとうに頭の下がる思いでした。

熊本県の学校においても構造体の耐震化が進んでいたため、一部で損壊があったものの倒壊した棟はなく、非構造部材の耐震対策が未実施の棟において多くの被害があったようです。いかに「安全」のためには耐震対策が必要なのかがよく分かります。なお、避難所となった学校では新たな課題もあったようです。

○体育館内の多目的トイレ ○自家発電設備 ○テレビ等の情報機器 ○シャワー（温水） ○体育館空調 ○調光機能を備えた照明や体育館出入口の照明 ○水 ○プライバシー配慮スペース（更衣、授乳など）。

それでは、私たちが勤務する学校はどうでしょうか。実際、大規模な地震が発生したら指定避難所かどうかに関わらず大勢の住民が押し寄せることが想像されます。構造体、非構造部材の耐震化は進みましたが「安全」については担保されませんでした。しかし、体育館に多目的トイレはあるでしょうか。温水のシャワーはあるでしょうか。水の備蓄はどうでしょうか。避難所での生活が長期化になるにつれ、「安全」から「安心して生活できる環境」が必要となってきます。さて、どこまで整備すればよいのか。どこまでいっても「安心」はつきません。

話は変わりますが東日本大震災が起こった後、放射能や震災瓦礫が危険だとのことで東北地方への修学旅行のキャンセルが相次ぎました。実際は、そこで大勢の方が「安全」に生

活されています。これはいわゆる「不安」によるものです。誰か一人でも「不安」だと言えばそれが正義となり、たとえ偏った意見であっても「不安」を根拠にすれば正当化されることになります。朝、通学途中の子ども達に「おはよう」と声をかけても、子ども達が「不安」になれば不審者になってしまいます。今はそんな世の中なのです。

私たちは学校施設設備の「安全」のため日々努力していますが、「安心」まで求められたらどうすれば良いのでしょうか。予算があれば「安心」の要求に対しても対処できるでしょう。しかし、大人たちが要求する全ての「安心」に対処し、「安心」で満たされた環境で育った子どもたちが学校を巣立ち社会に出て立ち立をした時に、今のこの競争社会で果たして生き抜くことができるのでしょうか。

先日研修会で講師の方からこんな話を伺いました。

ある学校の先生は、耳の不自由な子どもがクラスにいるため、終わりの会で連絡事項を全体に話した後、その子にはノートに書いて渡してきていました。ある日、その子にノートを渡し忘れたため、連絡事項が保護者に伝わらなかったそうです。先生は直ぐに保護者に対してそのことを詫言ったそうですが、逆に保護者は子どもを叱ったそうです。「なぜ隣の友達に先生の話は何だったのかを教えてもらわなかったか」と。「安心」は自らの心がけや行動で得ることもできるのです。この親に育てられたこの子はきっと、社会に出ても生き抜く術を身に付けていくことができるに違いありません。

最後になりましたが、事務局長として大役を仰せつかりましたが、たいした仕事もせず 2 年間で過ぎてしまいました。皆様方に申し訳ない気持ちでいっぱいです。寛容な皆様方に感謝・感謝です。ありがとうございました。



「退職にあたり」

高原高等学校 長森 壽夫

退職にあたり気になっていることを記してごあいさついたします。

私たちは次のような課題に直面しているのではないかと思います。1つには短期間に多くの先輩方が退職され、学校事務の経験や知恵を若い人に繋げられないといういわゆるナレッジマネジメントの問題。2つめに、少人数が故に事務職員の力量と事務長の管理能力がダイレクトに問われるようになり、教育職と混在する職場で事務職員が生き生きと働けるにはどうあればよいかという学校組織マネジメントの重要性。これらの課題に日々果敢に奮闘されている事務長会、事務職員協会には感謝しかありません。

しかしながら、これから個々の業務量の負担をどうするかということに腐心し、業務の集約化や省力化を進め、高校版共同実施も模索されつつあるとき、「学校経営への参画」、「チーム学校」など、理念としての事務職員はどうあるべきなのか、学校の中で果たすべき役割は何なのかという問いかけを突きつけられています。

一方では、オックスフォード大学が認定したあと10年で「消え

る職業」「なくなる仕事」の中に私たちが携わる業務の部分も多く、愕然とする思いがあります。10年ではなくならないにしても初任者のこれからの40年間にどのようなドラスティックな変化が起こるのか予測がつかません。

私たちが世代交代に戸惑っている時に、教育界での役割の変化、さらには技術的進歩がもたらす職自体の変化の波が同時進行している時代を感じます。これからの「学校事務」「教育事務」という職を考えると事務長会、事務職員協会の役割にはさらに大きい期待がかかると思います。それに応えられる組織であり続けて欲しいと願いますし、若い人が続けていける職であるよう願うばかりです。

38年間多くの人に支えられ、助けていただきました。ありがとうございました。



いつか行ってみたいMLB観戦

諫早農業高等学校 野中 滋生

彦岐教育事務所に勤務していた頃（平成14年～16年度）、出勤前の短い時間に、イチロー選手が活躍するMLB（メジャーリーグベースボール）の試合をテレビ観戦していました。

転勤で諫早に住むことになり、子どもが野球を始めました。

ここから、封印していたはずの野球への思いが、大きく熱くなっていきました。そして、子どもの練習場への送り迎えから始まった野球への関わりは、1年後にはベンチに入ってスコアをつけ、試合に



は毎回監督車に同乗して、近隣他県へ早朝から出かけるようになりました。時には、貸切バスや飛行機で、九州・沖縄、山口や広島、大阪へと、大会に行くこともありました。

また、高校野球の観戦にも数多く足を運びました。特にビッグNスタジアムには、職場を抜け出して、度々応援に出かけました。

甲子園球場にも、何度か応援に行きました。中でも忘れられない試合は、2009年（平成21年）4月2日第81回選抜高校野球決勝、清峰高校が1-0で花巻東高校を破り優勝した試合です。緊迫した場面が1回表から最後のプレイまで続いてあっという間に9回、そして優勝、年度初め超忙しい時に応援に行かせてもらったその時の上司や仲間には、今でも大変感謝しています。本当に素晴らしい試合でした。

間もなく退職を迎え、新たな歩みを始めます。

今後も、これまで関わってきた野球少年達のその後の成長を見ながら、また共に酒を酌み交わした野球関係者との交流を続けながら、近くの球場に足を運びながら、野球と関わっていききたいな、そしていつかはMLB観戦に行ってみたいな、と思っています。

事務長になって10カ月

諫早東特別支援学校 若杉 智子

4月に事務長に発令され、新任事務長と思っているうちに早くも10か月が過ぎようとしています。良かったのか悪かったのか、横滑りしてしまその席に座っています。

当初は立場が変わり気持ちも新たに頑張ろう！異動で顔ぶれも変わり、担当も変わったからなどと思っているうちに、だんだん事態が変わってきました。

事務室には5名が勤務。勤務時間が人や曜日によってまちまちで全員揃っている時間帯が限られ、たまには1人しかいないこともあります。そのような中で途中から職員が休みがちになり一時困ったことになりましたが、代替の方に勤務してもらえらることになり救われています。

私が勤務している諫早東特別支援学校は県立こども医療福祉センターに隣接した肢体不自由と病弱教育の小規模な学校で、児童生徒は手術やリハビリ、入院のため短期間での転出入が多いのが特徴です。平成30年度には創立40周年を迎えます。校

舎は建築後40年以上経過し、施設・設備の劣化によるものなど不具合に悩まされることもしばしばで、小さな修繕ですら不得手な私にとってはこの予算厳しき折、せめて私がいる間は壊れないで！と祈る気持ちです。

昨年はリオ・パラリンピックのボッチャ競技（この学校に来て初めて知りました）で銀メダルを獲得された日本チームの木谷選手の出身校ということでテレビや新聞で紹介されたりして、一時的に有名になったような気がします。

また、学校のすぐ側をJRの線路が通っていて、小学部の児童数名は線路近くに並んで、始業前にちょうど通過していく「特急かもめ」に手を振っている光景が見られます。これに応えながら列車が通過していくことも子どもたちも嬉しそうです。「かもめ」で博多方面にお出かけの際は、諫早駅を過ぎたらすぐ右手に2階建てのこじんまりした校舎が見えますので一度ご覧ください。



昨年度までの穏やかだった日々から、4月以来の様々な出来事が新任事務長にとっての試練なのかと思い、周りの皆さんも巻き込んで一緒に考えたり、悩んだり、そして助けられながら過ご

しています。新任事務長と言われるのもあと少し、思いどおりに進まなくてイラッとする気持ちを押えつつ、毎日を楽しみながら過ごしていきたいと思っています。

宇久島よいとこ一度はおいで

宇久高等学校 寺田 敏郎

昨年3月の事務引継のとき初めて宇久島に渡りました。(日帰りでは、2時間しか滞在できないこともそのとき知りました。)

学校の玄関に飾ってある写真(タイトルは「意気投合」)を掲載しています。前年度に卒業した11人の生徒の写真です。たまたま市内在住の写真家の方に撮っていただいたそうで、右側に写っているのは、「平家盛公上陸」の記念碑です。

今年は創立67周年・独立50周年の記念式典があるので、大変ですよといわれてましたが、前任の山村事務長に、名簿づくりや寄付金集めなど、面倒なところは片付けていただいており、特に苦労は感じませんでした。

宿泊施設・祝賀会会場のキャパや交通機関の関係で、参加人数は130名ほどでしたが、こじんまりとした中にもいい式典になったのでは、と自賛しております。

さて、その式典のオープニングで、宇久高校のテーマソング??を披露しています。奈留高校の「瞳を閉じて」(ユーミン)には及ばないでしょうが、宇久高校にも創立60周年のおり、当時2年生の吹奏楽部の生徒が作詞をして、雲仙市在住のミュージシャン、川田金太郎さんが曲をつけた「宝島～ふるさと～」という曲があります。夏休み等の夕方、毎日島内放送されるので、島民にもおなじみの曲です。

「平家の里」や「牛のどよめき」といった宇久島の歴史や自然を歌詞に織り込みながら、ふるさとを離れる友達に向け、つらい



ことがあったらいつでも帰っておいでと呼びかける内容に、うるっときます。

せっかくですので、この季節にお似合いの3番の歌詞を載せて終わりたいと思います。なお、この曲を使った映像が You Tubeでも流れています。「宇久島、ふるさと、宝島」で検索してご覧ください。同じ離島の学校にとっては、ありふれた映像かもしれませんが…

～桜の季節に別れのときが来る 夢を抱えて旅立つ朝が来る
その日を僕が笑って見送るのは 君の見る夢が僕の夢でもあるから

山の静けさは 父さんの深い思いやり

空の微笑みは母さんの永久の愛

悲しくなったなら 辛くなったら

僕はずっとここにいるから いつでも帰っておいで

君を待っているから

僕は君の 宝島(ふるさと)だから

COFFEE BREAK

Time and tide wait for no man. ～時は人を待たない～

ペンネーム たそがれ静兵衛

最近、妻が人から聞いた話。人は10代、20代…50代と年齢を重ねるごとに時の流れる速さもそれに比例して時速10Km、20Km…50Kmという具合に感じる速さが変化するというのだ。

なかなか的を得た表現だと思う。たしかに50代後半の今、あれあれという間に時が予想以上の速さで過ぎ去っていくのを実感している。まして、現代はかつて人類が経験したことのない速さで変化している時代だと言われている。なんと慌ただしい時代なんだろうか。そういえば昭和の頃は今よりはるかにゆっくり時が流れていたようだった。このまま定年を迎えても時の流れは加速していくのだろうか?いや、それは困る。せっかく時間的な余裕を持てると期待しているのに、それでは四季の移り変わりを静かに見つめながら人生を楽しむというささやかな望みも叶わなくなってしまうのではないか。今はまだ、その頃の時の流れというものをまったく想像できないが、できるなら歩くほどの速さでゆっくり流れて欲しいものである。

学校勤務で嬉しいこと。あるある。Part 1

ペンネーム 「N・T」

先日、大変嬉しいことがありました。

N工業高校3年生の生徒さんが、手足の不自由な本校の児童・生徒のために ICT 機器などを課題研究で作成して届けてくれたのです。その様子は、翌日の新聞やニュースで報道され、いろいろ

な方に「良かったね。」と言っていただきました。それにしても、その工業生たちはテレビカメラの前でも堂々と機器のプレゼンを行い、質問にも聡明に回答するなど、頼もしい限りです。

何回か本校を訪れ、こんな道具やあんな道具が欲しいと言う先生方の要望を聞き取りし、子ども達と接しながら、その子に適した機器づくりを追求してくれました。就職試験等で忙しかったでしょうに、顧問の教諭によれば、放課後も遅くまで残って熱心に製作してくれたそうです。

自分達の「ものづくり」が人の役に立つ喜びを体験してもらいたい、障害のある子ども達の事を知って欲しいと願って始めた企画ですが、工業生の予想を超えた「がんばり」には心打たれました。

彼らが発表した研究目的「特別支援学校の生徒がより快適に『School LIFE』を送れるようにするためにその助けになるようなものを製作する。」には同じ目線に立ってサポートしたいという爽やかな志を感じます。「自分達は今年卒業するが、この研究は後輩達に引き継いでいきたい」と話す工業生。日本の未来は明るい! これからも、折りにふれ、障害のある人を応援して欲しいと願ってやみません。

障害がありながら、明るく頑張る子ども達から、私も日々元気をもらい、学ばされています。

ひとりでも多くの人が、本校の子ども達の素晴らしさを理解し、サポーターになってくれるようインクルージブ社会実現に向けて、発信できたらと思っています。



作品名 フレキシブルアーム
吸入の際、ずっと手で支えなければいけなかったが、このアームを使って自由な位置に吸入器を固定できるようになった

時を越えて繋がったもの

長崎県埋蔵文化財センター 所長 岩永 正弘

突然の原稿依頼に困惑しながらも、これまで事務長会をはじめ事務長さん方にはさんざん無理なお願いをしてきた身、断れるはずもなく、お引き受けすることになりました。

長崎県埋蔵文化財センターと原の辻遺跡については、第28号に当時の所長による紹介文が掲載されているようですので、あれこれと悩んだ結果、埋蔵文化財にまつわる思い出の一端を書かせていただくことにしました。

もとより文才は無く、事務長会広報紙の趣旨にそぐわない内容となることをお許しいただきたいと思います。

埋蔵文化財と言ってまず思い出されるのは、小学校時代のことです。

どの学校も同じだと思いますが、当時、高学年の教室には日本史の年表が掲示してありました。「はじめ人間ギャートルズ」などのアニメの影響もあってか、年表を眺めては縄文や弥生といった時代に想像を巡らせていました。近くの空き地での遺物探しがその頃の遊びとなり、考古学という言葉を知って何となく遺跡の発掘や歴史に興味を持ったことを覚えています。

また、鍬（やじり）などの材料となる黒曜石が身近にあって、野山を歩き回れば比較的容易に見つけることができました。私の育った地域が黒曜石の産地としてその道の人たちに知られた場所だということを知ったのは、埋蔵文化財センターの前身でもある原の辻遺跡調査事務所を出張の合間に訪れた時のことでした。

子どもの頃のマイブームはすぐに去りましたが、昨年4月、なんと40年の歳月を経て実際に遺跡の発掘調査を経験することになってしまいました。

次に思い出されるのは高校時代のことです。

3年生のとき、創立20周年記念の文化祭がありました。元寇（弘安の役）からちょうど700年の節目ということで話



題になっていたからだと思いしていますが、自分たちのクラスは元寇に関する展示をすることになりました。平成23年の元軍船の発見により海底遺跡としては国内で初めて国史跡に指定された「鷹島神崎遺跡」がある旧鷹島町は、当時から発掘調査が行われるなど元寇の島として有名でしたが、実はその周辺にも元寇ゆかりと考えられる地名や塚などが存在していました。文化祭に向けて地名の由来や福岡市の元寇防塁などを調べましたが、まさか実際の調査に将来関わりを持つことになるとは、その時には考えも及びませんでした。（ちなみに、当時調べたことで今の仕事に役立っているものは、残念ながら何もありません。（笑）

ちょうど1年前、異動により埋蔵文化財保護行政に携わることになりました。これまでの仕事においてほとんど関わりが無かった分野だということもあり、緊張の中で着任しましたが、記憶をたどってみると実は全く無縁なことでもなかったのです。

埋蔵文化財は、国や地域の歴史・文化の成り立ちを理解する上で欠くことのできない国民共有の貴重な歴史的遺産であるとの認識のもと、時を越えて繋がった不思議な縁を楽しみながら、これからも職責を果たしていきたいと思っています。

編集後記

今年1月に第45代アメリカ合衆国大統領に就任したドナルド・トランプ氏の言動がいろいろと話題になっています。日本政府もその対応に苦慮しそうです。

世界的に見ると彼に対し批判的な意見が多いようですが、アメリカ国内には、彼を熱狂的に支持する人たちも多いようです。現状に不満を抱え、とにかく何か変えて欲しいと思っている人々がたくさんいるということでしょうか。

一方、われわれ学校事務職員を取り巻く環境には、個人の意思とは関係なくめまぐるしい変化の波が押し寄せているように感じま

す。これを乗り越えるのはなかなか難しく、もっとゆっくりとした穏やかな変化の波でいいのに…と思っています。

今回、岩永所長様をはじめ、松嶋事務局長様、今春御勇退される方々、そして新任の方々に執筆をお願いしましたところ、快くお引き受けいただきまして心より感謝いたします。

また、今回「COFFEE BREAK」へもお二人の方から投稿いただきました。このコーナーでは皆様からの身近なエピソード等をお待ちしています。奮って投稿していただきますようよろしくお願いいたします。

(K・H)